

公開研究会

主催：神戸女子大学古典芸能研究センター研究プロジェクト
「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」

伝統と現代をつなぐもの —民俗芸能と古典芸能—

日時：2016年11月26日（土）
10:30～17:00

入場無料・申込不要

場所：神戸女子大学教育センター5階特別講義室
問合せ先：神戸女子大学古典芸能研究センター

【趣旨説明】10:30～11:00

伝統と現代をつなぐもの

川森 博司（古典芸能研究センター長・神戸女子大学教授）

【研究発表】11:00～15:10（11:40～13:00 休憩）

① 沖縄における民俗芸能の位相 —現代に生きる伝統—

久万田 晋（古典芸能研究センター客員研究員・沖縄県立芸術大学教授）

② 民俗芸能における歌舞の儀礼性 —古典芸能と民俗芸能をつなぐもの—

藤田 隆則（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授）

③ 兵庫県の祭りと芸能 —伝統とその展開—

小栗栖 健治（古典芸能研究センター客員研究員・元兵庫県立歴史博物館館長補佐）

④ 播磨における王の舞の諸相

橋本 裕之（追手門学院大学教授）

【総合討論】15:15～17:00

コメンテーター

宮本 圭造（古典芸能研究センター客員研究員・法政大学能楽研究所教授）

松尾 恒一（国立歴史民俗博物館教授）

司会

川森 博司

現在、舞台の上で優雅に演じられる古典芸能の背景として、さまざまな歴史風土の中で地元の人々によって演じられてきた民俗芸能の存在が一般に想定される。しかし、両者は単に洗練と素朴の関係にあるのではなく、相互に共通する要素を持ち、互いに影響を与え合いながら、それぞれの場で発展を遂げてきたという見方も可能である。この研究会では、伝統と現代をつなぐ存在としての芸能の役割を、具体例に即しながら検討してみることにはしたい。

11月7日から12月22日まで、2階展示室で、公開研究会 伝統と現代をつなぐもの 関連展示を開催します。



JR三ノ宮、阪急・阪神神戸三宮、神戸市営地下鉄三宮駅より北へ徒歩約15分

〒650-0004 神戸市中央区中山手通2丁目23-1

TEL (078) 231-1061

E-mail geinou@suma.kobe-wu.ac.jp